

NEXCO中日本グループの経営上の課題と取組み【概要】

1. 民営化の目的・概要とこれまでの取組み

(1) 民営化の目的・概要とその成果

- 1) 道路関係四公団合計で約40兆円に上る有利子債務を一定期間内に確実に返済
- NEXCO中日本では、民営化後8年半の累計で約3.3兆円の賃借料を機構へ支払い
 - 機構は、会社からの貸付料で有利子負債を順調に返済(2005年度期首27.3兆円⇒2013年度期首21.9兆円※(計画値:22.5兆円))

(※NEXCO3社の全国路線網十の路線、高速道路利便増進事業による承継債務の移動を考慮)

- 2) 有料道路として整備すべき区間について、民間の経営上の判断を取り入れつつ、必要な道路を早期に、かつできるだけ少ない国民負担の下で建設

- NEXCO中日本では、民営化以降、**2014年7月までの間に17区間、約350kmを新規開通**
- 特に、**新名神**(亀山JCT～甲賀土山・19km)・**新東名**(御殿場JCT～三ヶ日JCT・162km)を予定より約1年間早期に開通

【建設コスト】

- 着実な早期整備・コスト削減により、**当初協定に対し約21%の削減を実現**※(※2006.4～2014.7までに完成引渡した箇所を対象)

【管理コスト】

- 2003年12月22日政府・与党申し合わせを踏まえ、**民営化までに3割の管理コストを削減**
- さらに民営化以降も、道路の安全かつ円滑な交通を確保するための一定の管理・サービス水準の確保を前提に、発注ロットの効率化や新技術・新工法の積極的採用など更なるコスト削減に向けた不断の取組みを継続

【人件費】※(※道路事業(計画管理費及び建設投資)を対象とした役員・社員の報酬(給与)、賞与その他の手当の合計額)

- 民営化以降、賞与の削減、採用人員の抑制、定期昇給の一時停止、給与制度改革などの人件費抑制の取組みを進め、**2005年度比で約10%の人件費を削減**※(※2013年度実績)

- 3) 民間ノウハウ発揮により、多様で弾力的な料金設定、サービスエリアを始めとする道路資産や関連情報を活用した多様なサービスを提供

【多様で弾力的な料金設定】

- 民営化時の会社コスト縮減により**深夜割引等の時間帯割引を実施**、また観光促進や地域活性化につながる**独自の企画割引を積極的に実施**



企画割引の例
「舞鶴若狭道
全通記念
ドライブプラン」

【民間ノウハウ発揮による関連事業の実施】

- NEOPASA・EXPASAを中心に、**お客さまに感動いただけるサービスエリアを創造**するとともに、**地域社会との連携や環境保全を推進**
- 旅行業・カード事業や海外事業などの**新規事業を積極的に展開**



新東名・NEOPASA駿河湾沼津(上り)

【地域に根ざした事業展開】

- SA・PA内の関連事業敷地を有効活用し、**地域社会と連携した生活支援商品や地産商品等を展開**
- 地域食材を活かしたメニュー開発の取組みや、これまでSA・PAでは販売していなかった**地域性を追求した地場産品を積極的に販売**
- 新たな事業領域の創造に向けて、**地域と連携した新規事業**を展開



地元農家による地産商品の販売
中央道・談合坂SA(上り)



「越前漆器」コーナー
北陸道・南条SA(下り)

【保有資産の有効活用】

- 当社グループの有する**不動産・技術・ノウハウなどの保有資産を有効に活用**し、事業を展開

(2)グループ経営の確立

1)民間企業としてのマネジメント

- 民営化後は、中期経営計画、CSR活動、リスクマネジメントなど、**通常の民間企業と同じ経営管理手法を導入**

2)グループ経営の導入

- お客さまに、安全・安心・信頼される道路サービスを提供するために不可欠な業務は、本来業務として実施に関するノウハウを蓄積し活用することにより、更なるコスト管理の徹底・CS向上のため、**グループ経営を導入**、環境変化に合わせた不断の見直し(PDCA)を実施
- これまで、使命感の共有による**危機管理・応援体制の確立**、業務の見直し・間接部門の共有化などによる**効率性の向上**、お客さま第一の基本姿勢のもとでの自律性をもった業務実施による**CS(サービスレベル)の向上**、連結決算の実施による**透明性の確保**などの成果

2. 今後の課題と取組み

※施策については、主なものを抜粋

(1)安全性向上の不断の取組み

1)「安全性向上3カ年計画」

- 2012年12月2日、当社の管理する中央道笹子トンネル(上り線)において天井板落下事故が発生、**「二度とこのような事故を起こしてはならない」という深い反省と強い決意のもと、再発防止に向けて、事故後直ちに取組んでいる施策も含め取りまとめ**、2013年7月26日に公表
- 以下の5つの柱の取組みによって、**より安全で、安心な高速道路サービスの提供**に努める
 - ①安全を最優先とする**企業文化の構築**
 - ②構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した**業務プロセスの見直し**
 - ③**安全管理体制の確立**
 - ④体系化された安全教育を含む**人材育成**
 - ⑤**安全性向上に向けた事業計画**(3カ年の修繕計画約2,450億円、うち安全性向上に約2,350億円)

2)道路老朽化対策の本格実施

- 道路法施行規則の一部改正に伴う保全点検要領の改訂及び確実な点検の実施
- 2014年1月、NEXCO3会社連名で**約2,110kmの高速道路**について**概算事業費を3兆200億円**と見込む大規模更新・大規模修繕の概略計画を公表
- 今後、**計画管理費の確保**や事業の具体化に向けて必要な課題について、関係機関と連携して検討を進める

(2)すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足を

- 2017年度までに、新たに**96kmの高速道路を開通**させ、**2カ所の追加IC・JCT及び25カ所のスマートICを整備**、事業を効率的に推進して建設コストの削減に取り組む
- 業務継続計画(BCP)に基づき**高速道路やサービスエリアの防災機能を強化**し、災害発生時には避難・救援活動を支援、また**雪氷対策を強化**して冬季の安全な通行を確保
- ソフト対策とハード対策の両面から**交通事故防止・安全対策**に取り組む
- 渋滞のボトルネックとなる箇所への付加車線の整備など、**渋滞対策を推進**
- **NEOPASAやEXPASAを軸**に、サービスエリアで**お客さまの多様なニーズにお応え**

(3)飛躍へのたゆまぬ挑戦

- イノベーションを加速し、**新たな事業領域と新技術の開発に挑戦**

(4)NEXCO中日本グループの企業ビジョン(めざす姿)

- グループの現在の姿を示す指標として**KPI(重要業績評価指標)**を設定して施策の達成状況を把握
- 2015年度の**「安全を最優先とする企業文化を有し、社会から信頼される会社」**、2017年度の**「安全を最優先し、安心・快適を提供する世界一の高速道路会社」**をめざす

